



研究科等 未来プラン 2021

概要版



目次

1. はじめに

策定の背景	P.3
名市大未来プラン2021 概要	P.4
名市大未来プラン2021 48のプラン一覧	P.5

2. 研究科等未来プラン2021

代表的な取り組み一覧	P.8
■医学研究科	P.9
■薬学研究科	P.11
■経済学研究科	P.13
■人間文化研究科	P.15
■芸術工学研究科	P.17
■看護学研究科	P.19
■理学研究科	P.21
■名市大病院	P.23
■名市大東部医療センター	P.25
■名市大西部医療センター	P.27
■高等教育院	P.29
■社会貢献	P.31
■国際化	P.33



「この世に生き残るものは、力が強いものでも、頭が良いものでもない。変化に適応したものだ」。進化論者ダーウインが唱えたと言われる名言を私たちは心に留めたいと思います。

本学では、2021年2月に全学の教職員約100名が議論を重ね、「名市大未来プラン2021」を策定しました。これは、2014年に策定した「名市大未来プラン」が6年の歳月を経て、52のプランの大半が実現できたことに加え、本学や社会が急激に変化する中において、本学が進むべき中長期的な方向性を示したものです。

「名市大未来プラン2021」を着実に実行するために、このたび、7研究科・高等教育院・3大学附属病院・社会貢献部門・国際部門の計13分野における「研究科等未来プラン2021」を策定しました。本冊子はその概要をまとめたものです。詳細版は本学のWEBサイトに掲載しておりますのでご一読ください。

本学は、「名市大未来プラン2021」と「研究科等未来プラン2021」の「2つの未来プラン」を2024年度から始まる「第四期中期計画」に反映させるとともに、「名古屋市次期総合計画」に採用されることにより、名古屋市と協調しながら、市民に愛される大学として明るい未来を実現してまいります。

これら「2つの未来プラン」の実現に向けて、教職員や学生はもとより、名古屋市や関係省庁、企業、市民、同窓会など学内外の多くの皆様からの温かいご理解とご支援を賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

2022年1月吉日

名古屋市立大学 理事長 学長
 郡健二郎

1.はじめに



策定の背景

1. 位置づけ

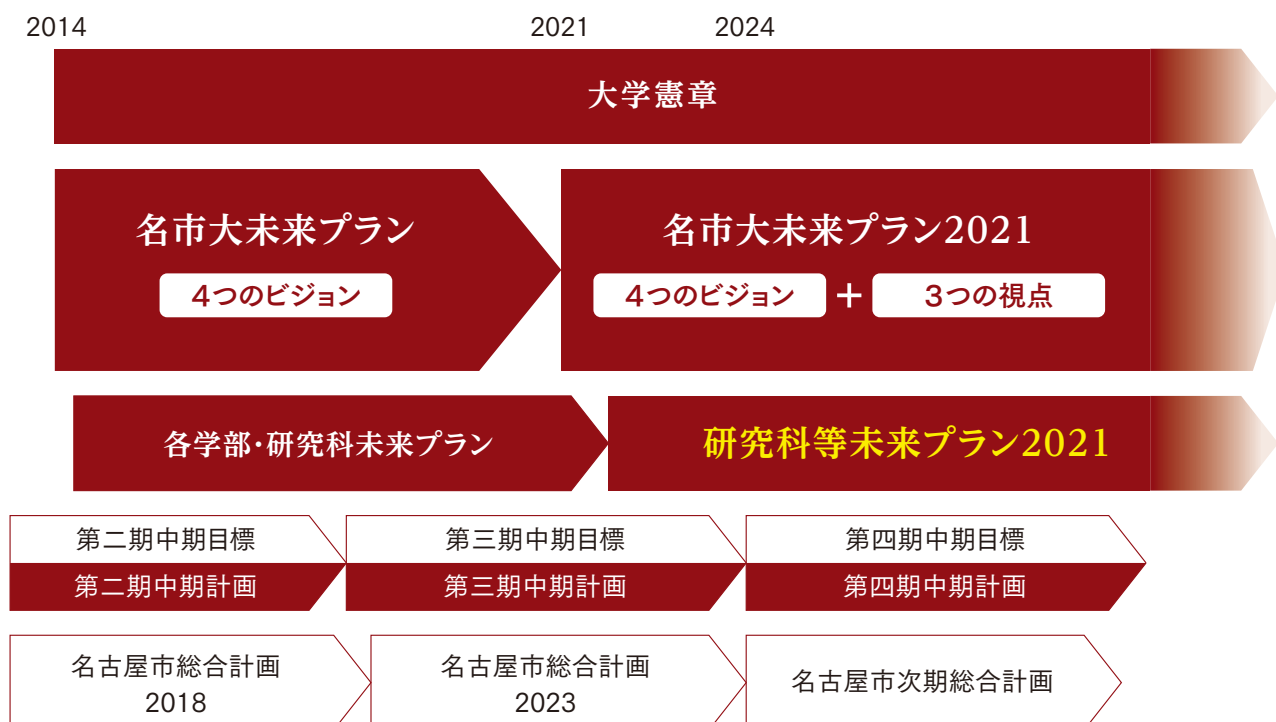
2021年2月に策定した「名市大未来プラン2021」の着実な実行と全学的な展開を図るため、このたび、各研究科・高等教育院・医学部3附属病院および社会貢献部門・国際部門における計画を具体化させた「研究科等未来プラン2021」を策定しました。



2. 研究科等未来プランで目指すこと

研究科等未来プランを通して、「名市大未来プラン2021」における4つのビジョン、3つの視点、48のプランの着実な実行と全学的な展開を図ります。

また、名市大未来プラン2021の内容、および研究科等未来プラン2021の内容をもとに第四期中期計画を策定するとともに、その内容を名古屋市次期総合計画に反映させることで、本学の明るい未来の実現を目指していきます。



名市大未来プラン2021 概要

1. 名市大未来プラン2021 策定の背景

時代の変化に的確に対応し、本学の強みを活かしながら、15年後の明るい未来を築いていくため、2014年10月に「名市大未来プラン」を策定しました。策定から6年が経ち、当初掲げていた52項目のプランはほぼ実現することができました。

この「名市大未来プラン」を継承しつつ、本学の現状や社会情勢の変化を踏まえて、今後進むべき方向性を長期的かつ戦略的な視点で示す道しるべとして、新たなプラン「名市大未来プラン2021」を策定しました。

2. 4つのビジョン

2014年に策定した名市大未来プランでは、以下の4つのビジョンを掲げ、大学・附属病院の運営に取り組んできました。

- ① 誇りを持ち、愛される名市大：教育・研究・診療の環境づくり
- ② 名古屋市と共に発展する名市大：名市大の明るい未来づくり
- ③ 戦略性を持って世界に飛躍する名市大：和、実行力、戦略性、透明性のある大学づくり
- ④ 経営基盤が安定した名市大：経営改善に向けた体制づくり

3. 3つの視点 -3S-

名市大未来プラン2021では、上記の4つのビジョンを踏まえた上で、新たに3つの視点(3S:Society5.0、Social Innovation、SDGs)を設定しました。これらは、本学の今後の全ての活動において、共通して意識すべき重要な視点です。



■ Society 5.0

人工知能やデータベースを利用して人とモノがつながる社会

■ Social Innovation

既存の解決法より効果的・効率的かつ持続可能な、社会問題に対する革新的な解決法

■ SDGs

Sustainable Development Goals. 持続可能な開発目標

4. 48のプラン

名市大未来プラン2021では、以下8領域において、本学が今後実現すべき48のプランを設定しました。

【8領域と、各領域のキーワード】

- ◆ 教育：学修者本位の教育の実現
- ◆ 研究・産学官イノベーション：先端的な研究による産学官イノベーションの創出
- ◆ 社会貢献：名古屋に育てられ、名古屋をつくる大学
- ◆ 国際化：地域に根ざしたグローバルな活動の展開
- ◆ 医療：卓越した高度先進医療の提供と地域包括ケアの推進
- ◆ 経営基盤：将来の発展を見据えた持続可能な経営基盤の確立
- ◆ 組織マネジメント：社会の変化と多様化に柔軟に適應できる組織づくり
- ◆ MIRAIへの展開：時代の一步先をデザインし、進化し続ける大学

1. 教育



- (1) Society5.0をこえて活躍する未来志向の人材育成
- (2) 多様な学修者に対応できる柔軟な教育プログラムの構築
- (3) 学生本位の学修に対応した教育機会・学修支援の充実
- (4) 広い視野を持ち質の高い教育ができる教員による教育力の向上
- (5) 自主的・自律的な学修をサポートする施設・設備の整備
- (6) ICTを活用した学修環境の充実
- (7) 名古屋市教育委員会との連携および高大連携の強化



2. 研究・産学官イノベーション



- (1) 異分野融合型の革新的研究の推進
- (2) 市民の健康と福祉に革新をもたらす先進的な研究の推進
- (3) 社会課題・社会ニーズをベースとしたイノベーションの実現
- (4) 産学官連携支援体制の強化による共同研究の推進
- (5) スタートアップ企業支援によるイノベーションの創出
- (6) 優秀な若手研究者や大学院生が集まる魅力的な研究環境の構築
- (7) 研究拠点の設置と研究設備の拡充
- (8) 持続的な研究費の獲得
- (9) 研究成果の戦略的・効果的な発信
- (10) 名古屋市と連携した産学官連携の名市大モデルの構築



3. 社会貢献



- (1) SDGs17の目標達成に向けた取り組みの推進
- (2) 持続可能な地域づくりへの貢献
- (3) 学修者が自分自身を改革するための継続的な学びの環境の創出
- (4) 名古屋市が抱える課題の解決への貢献



4. 国際化



- (1) 教育・研究の国際化のための仕組みづくり
- (2) 国際交流センターの機能・体制強化
- (3) 海外拠点校を中心とした交流および協働の推進
- (4) 名古屋市の多文化共生を支える学際的な実践研究の促進



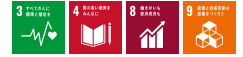
5. 医療



- (1) 約1,800床の病床を活かした医療体制の強化と高度先進医療の提供
- (2) 超高齢社会における医療体制の提供と地域医療への貢献
- (3) 高度先進医療提供のための病院機能の強化
- (4) 救急・災害医療機能の強化
- (5) 優れた医療人の育成と質の高い医療を提供する組織の構築
- (6) ビッグデータ・高度情報技術・ロボット技術の利活用
- (7) 臨床研究・治験ネットワークの構築
- (8) 安定経営のための経営改革・組織改革の推進



6. 経営基盤



- (1) 法人運営の基盤となる財源の確保
- (2) 多様な財源の確保に向けた取り組み
- (3) 附属病院群の堅実経営による法人運営の安定化
- (4) 資源の適切な配分やAI・ICTの活用等による法人運営の効率化
- (5) 長寿命化の視点に立った施設整備・有効活用



7. 組織マネジメント



- (1) 常に社会変化に対応できる柔軟な組織への進化
- (2) 戦略的な人材確保、育成および配置
- (3) 教職員一人ひとりが活躍できるためのダイバーシティの推進
- (4) 組織マネジメントにおけるAI・ICTの活用



8. MIRAIへの展開



- (1) 世界TOP100を目指した戦略的な投資
- (2) 本学が持続的に発展するための柔軟な対応
- (3) AI・ICTの積極的利用による複数キャンパスの最適活用
- (4) ブランド力の強化による国内外におけるプレゼンスの向上
- (5) 同窓会と名古屋市大サポーターの協働
- (6) 名古屋市や関係省庁との連携の進化



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



名古屋市大未来プラン2021では、SDGsの理念を踏まえながら、プランの実現を目指します。

2. 研究科等未来プラン2021



代表的な取り組み一覧

研究科等	代表的な取り組み
医学研究科	<ul style="list-style-type: none"> ● 広い視野をもち社会の将来像を見据えた教育ができる教員の養成 ● 基礎―臨床の連携推進による研究力強化 ● 医学研究科の活性化に資する戦略的な投資
薬学研究科	<ul style="list-style-type: none"> ● 時代の変化に即し、多様な学生および市民のニーズに対応した教育システムの整備 ● 薬学臨床・基礎研究の連携・支援強化と市民の健康への還元 ● 高度医療人材(薬剤師)の育成
経済学研究科	<ul style="list-style-type: none"> ● 教育研究施設の整備 ● 名古屋市のシンクタンク機能の強化 ● 国際交流協定校との研究教育交流の促進
人間文化研究科	<ul style="list-style-type: none"> ● ESD・SDGsの研究・教育の進化 ● 学内外の連携強化に基づく異分野融合の革新的研究・教育 ● 名古屋市や関係機関との連携の進化
芸術工学研究科	<ul style="list-style-type: none"> ● デザインで社会創発する人材を育成 ● 都市環境と健康福祉に貢献する先端研究 ● 時代の一步先を開拓
看護学研究科	<ul style="list-style-type: none"> ● 附属病院群との連携強化と課題解決型FDによる教育支援システム構築 ● 地域貢献事業の継続と発展 ● 多様な背景を持つ人びとやコミュニティへの健康支援に関する教育の取り組み
理学研究科	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会で求められる理系人材の養成を目指した理学教育体制の強化 ● 研究科横断的な研究拠点の構築と異分野融合型の革新的研究の推進 ● 若手教員の積極的採用による研究教育体制の活性化
医学部附属	名市大病院 <ul style="list-style-type: none"> ● 約1,800床の病床を活かした医療体制の強化と高度先進医療の提供 ● 優れた医療人の育成と質の高い医療を提供する組織の構築 ● 臨床研究・治験ネットワークの構築
	名市大 東部医療センター <ul style="list-style-type: none"> ● 救命救急センターの機能向上による名古屋都市圏でのブランド化 ● 高い専門性と倫理観を有する多様な医療人およびそのリーダーの養成 ● 研究の推進と附属病院群のスケールメリットの活用
	名市大 西部医療センター <ul style="list-style-type: none"> ● がん医療の充実 ● 優れた医療人の育成と質の高い医療を提供する組織の構築 ● 臨床研究の強化
高等教育院	<ul style="list-style-type: none"> ● 教育分野におけるDXの推進 ● 教学IRの推進 ● 学修者本位の教育の実現
社会貢献	<ul style="list-style-type: none"> ● SDGs17の目標達成に向けた取り組みの推進 ● 幅広い世代の生涯学習の機会の拡充 ● まちづくり、地域経済の活性化、子育て支援、医療、福祉など名古屋市をはじめとした地方自治体等が抱える課題解決への貢献
国際化	<ul style="list-style-type: none"> ● 教育・研究の国際化のための仕組みづくり ● 国際交流センターの機能・体制強化 ● 名古屋市圏の多文化共生を支える学際的な研究と実践の促進

研究科等未来プラン2021の詳細については、本学のウェブサイトで公開しております。詳しくは「名市大未来プラン2021」で検索してください。
<https://www.nagoya-cu.ac.jp/about/profile/ncuplan/>

本学ではデータサイエンス学部(仮称)の設置(2023年4月)を構想中です。

医学研究科未来プラン2021

～未来を切り拓く教育と研究を担う
医学部・医学研究科～



■ 医学研究科未来プラン2021で目指すこと

国内外の社会情勢の変化に対応できる教員養成および施設整備を行うとともに、俯瞰的な視点と自主性を育む教育を実施します。研究科内における研究所・センターの活動拠点を活性化、研究科間・産学官連携を強化させると同時に研究科全体における世界トップレベルの研究を推進し、研究成果の発信・還元、地域医療、市民公開講座開講、SDGs活動を中心とした社会貢献を実践します。また、名古屋市と医療・教育面で密な連携・協力体制を確立・発展させていきます。

■ 医学研究科未来プラン2021 概要一覧

領域	プラン	対応する名市大 未来プラン 2021番号
教育	(1) 広い視野をもち社会の将来像を見据えた教育ができる教員の養成 東部・西部医療センターの附属病院化による教員数の充実を踏まえ、さらに、臨床実務に即しSociety5.0に対応できる教員を養成していきます。	1-(1)(4)(7)
	(2) 学修者本位の教育を実現するための環境構築 学修者本位の教育を実現するために、教育カリキュラム、設備の充実、ICTの活用、教学IRの実践を進めていきます。	1-(2)(3)(5)(6)(7)
	(3) 学部・大学院・卒後にわたる継続的かつ多様な教育・研修システムの構築 在学時から卒後にかけての切れ目ない教育・研修プログラムを設計するとともに、多様な学修者に対応した自己研鑽システムを構築します。	1-(2)(3)(5)
研究・産学官イノベーション	(1) 基礎—臨床の連携推進による研究力強化 東部・西部医療センターを加えて国公立大学では国内最大規模となった大学病院の研究をサポートする体制を整備し、基礎医学との連携を強化することで、トランスレーショナル・リバーstransレーショナルリサーチを促進します。	2-(1)(2)(3)(8)
	(2) 研究拠点の形成・発展と特色ある医学研究の推進 脳神経科学研究所、がん診療・包括ケアセンター、不育症研究センター、エコチル調査愛知ユニットセンター、実験動物研究教育センターなどの研究を促進するとともに、新たな研究分野の拠点を形成します。これらと研究科内および大学全体との連携を強化して、地域社会に貢献するとともに世界トップレベルの研究を推進します。	2-(1)(2)(3)(4)(6)(7)(8)(9)(10)
	(3) 研究者の能力を向上させる環境の整備 優れた医学研究者を育成するとともに優秀な研究者を集めるための環境を整備し、研究者の意欲を向上させるための評価制度を確立します。	2-(6)(7)(9)
	(4) 産学官連携による研究成果の社会還元 名古屋市および企業との連携によって、地域の課題解決に向けた医学研究を強化し、その成果を社会に還元します。	2-(3)(4)(5)(10)
社会貢献	(1) 医療福祉特化型SDGsプロジェクトの実施 学生と教職員が中心となり、地域や地元企業等と連携して、SDG3(すべての人に健康と福祉を)を実現するための複数のプロジェクトを実施します。	3-(1)
	(2) 地域貢献活動の実践 地域のニーズに応える幅広いテーマに対する講師の派遣、医療・保健学びなおし講座、最新医学講座オープンカレッジ、市民公開講座、蝶ヶ岳ボランティア診療所、中学生職場体験、地域参加型学習の発展と高度化を行い、地域への還元を活発化します。	3-(2)(3)
	(3) 名古屋市が抱える課題の解決への貢献 名古屋市との連携強化を通じて、先進的医療を供給する名古屋市のシンクタンク機能を担い、官学連携を推進します。	3-(4)

領域	プラン	対応する名市大 未来プラン 2021番号
国際化	(1) 医学研究科国際交流委員会の強化 日本人学生の留学支援や、今後増加する外国人留学生への学修・生活支援を強化するために、国際交流を通じた学修や研究力の強化を目指します。	4-(2)
	(2) 修士・博士課程のデュアル・ディグリーや学士課程の単位互換制度の拡充 協定校との交流を通じて、オンライン講義や実習を拡充し、デュアル・ディグリーや単位互換制度を整備し、地球規模で解決すべき課題に対して、世界で活躍できるグローバル人材を育成します。	4-(1)(3)
	(3) 国際学会の開催および海外交流支援 若手を中心に、脳神経科学研究所、がん診療・包括ケアセンター、不育症研究センター、エコチル調査愛知ユニットセンターなど、医学研究科が誇る研究資産や、先進的な医学教育体制を広く世界に発信します。また若手研究者に対する国際学会発表支援を行います。	4-(3)
医療	(1) 優れた医療人の育成と質の高い医療を提供する組織の構築 高度先進医療を実践する高い専門性と倫理観を持ち、名古屋都市圏においてさまざまに活躍できる医療人を育成します。多様性を活かした働き方の推進と個人を尊重する文化の醸成によって、誇りと愛着を抱くことのできる組織の構築を目指します。安全で質の高い医療を安定して提供できる体制を進化させ、名古屋市民の健康と幸福に貢献します。	5-(5)
	(2) 臨床研究・治験ネットワークの構築 臨床研究・治験のための環境を整備し、附属病院群を活用した大規模国際臨床研究・医師主導型治験を推進します。また、外部機関との人材交流を促進します。	5-(7)
	(3) 超高齢社会における医療体制の提供と地域医療への貢献 急性期から在宅医療に至るまで、医療・行政・介護・福祉・教育といった各機関の緊密な連携により、「循環型の地域包括ケアシステム」を推進します。名古屋市健康福祉局との連携を強化し、少子高齢化・国際化等の医療需要に応えつつ、治療と予防の両輪をまわし、人生100年時代を生涯現役で過ごせる社会づくりに貢献します。	5-(2)
経営	(1) 多様な財源の確保に向けた取り組み 教育・研究・医療の質のさらなる向上のため、寄附講座の積極的な獲得をはじめとする外部資金の獲得や、本研究科の資源を活用した新たな自己収入の確保など、多様な財源の確保を目指します。	6-(2)
組織 マネジメント	(1) 戦略的な人材確保、育成および配置 法人化メリットをさらに活かし、革新的な大学組織として成長し続けます。FD・SDの充実、活発な人材交流、評価制度の刷新など、人材マネジメントを強化することで、成長し続ける組織を実現します。	7-(2)
MIRAIへの展開	(1) 医学研究科の活性化に資する戦略的な投資 名市大医学研究科の特性を活かす教育・研究・社会貢献・医療の先駆的プロジェクトに戦略的に投資します。	8-(1)
	(2) 社会環境に応じて発展するための柔軟な対応 社会環境の変化をいち早く察知し、他研究科との連携強化を戦略的に行いつつ、諸課題に柔軟に対応し、高等教育施策に貢献します。	8-(2)
	(3) デジタル設備を活用した医学研究科附属施設の情報システムの共有化 医学研究科関連施設のそれぞれの特長を活かしつつ、AI・ICTを活用し、時代環境の変化に対応しながら、複数キャンパス間の情報システム共有に向けた計画を策定します。	8-(3)
	(4) ブランド力の向上による愛着の醸成 医学研究科の特色と強みを国内外にアピールし、より一層のブランド化により、学生、教職員、市民の愛着と誇りを醸成します。	8-(4)(5)

薬学研究科未来プラン2021

～教育・研究の実績を社会貢献に活かす～



■ 薬学研究科未来プラン2021で目指すこと

教育体制を整え、薬学領域における継続的な学び環境の支援を通して、持続可能な地域づくりの核となる、国際感覚豊かで次世代において活躍できる人材育成に貢献します。また、大学内外および産業界との共同研究や名古屋市との連携を一層発展させ、成長し続ける組織づくりにより、多様性に富んだ社会に柔軟に適応した薬学をリードする大学を目指します。

■ 薬学研究科未来プラン2021 概要一覧

領域	プラン	対応する名市大未来プラン2021番号
教育	(1) 時代の変化に即し、多様な学生および市民のニーズに対応した教育システムの整備 薬学教育モデルコアカリキュラムに即しつつ、変化する医療や科学に対応でき、高いレベルの研究マインドを有する人材を育成するとともに、優秀な高校生に対してアピールできる体制を整備します。	1-(1)(2)(3) (4)(5)(6) (7)
	(2) 名市大の強みと特徴を生かした教育プログラム 18歳人口の減少と医療職資格保持者の増大により、資格以外にも特徴や魅力を発信していくことが求められているため、名市大の一つの強み・特徴である神経科学をさらに学部横断型教育に発展させていきます。	1-(1)(3)(4) (6)
研究・産学官イノベーション	(1) 研究科内外の異分野融合研究促進イベントの開催 多様な分野の研究が実施されている薬学研究科で、研究分野間の連携・融合を推進するため、研究科内向け研究紹介データベースを構築します。これをもとに研究科内においても共同研究を推進し、その成果を全学の研究シーズ集へリンクさせ、技術説明会を開催することにより、さらなる異分野融合研究を促進します。	2-(1)
	(2) 薬学臨床・基礎研究の連携・支援強化と市民の健康への還元 薬学研究科主催のクローズドな臨床・基礎連携技術説明会を実施し、企業の参加も可能なイベントに育てていきます。また、薬剤師による臨床・基礎連携研究を実践する場としてリバーストランスレーショナルリサーチセンターを設置し、臨床研究連携をサポートできる体制を構築して、セルフメディケーションや地域医療の高度化を目指します。これらの支援として外部資金申請や知財などの相談体制の充実を進めるとともに、イノベーション相談を実現し、スタートアップ企業への発展について相談・支援をします。これらの成果発信についてSNSを活用した多言語で行います。	2-(2)(5)(8) (9)
	(3) 企業研究者等との緊密な連携による共同研究促進 企業の研究者・臨床開発担当者との連携関係を構築し、研究科内研究者と企業との共同研究を活性化します。	2-(4)
	(4) 循環的支援によるポスドク活躍体制の推進 フェローシップ制度等を積極的に活用し、またメンターや申請支援の仕組みを構築してポスドク活躍の循環的支援を実施します。実験技術講座を開設し、若手研究者が多くのスキルを習得できる環境を構築します。	2-(6)
社会貢献	(1) SDGsの目標達成に向けた薬学的な取り組みの推進と社会発信 SDGs未来都市に選定された名古屋市と協調し、また他学部とも連携強化して、SDGsの目標達成に向けた薬学的な取り組みを社会発信します。	3-(1)
	(2) 創薬基盤科学研究所を中核とした薬学拠点機能の構築 創薬基盤科学研究所を中心に、名古屋市の政策を薬学的立場から支援でき、名古屋市が抱える課題点を薬学的観点から解決できる薬学拠点機能を構築します。	3-(4)

領域	プラン	対応する名市大 未来プラン 2021番号
国際化	(1)大学院の国際化推進 大学院生の国際交流・協働への参加を促進します。国際交流協定校との間の教育および研究の協働を拡大・深化します。大学院留学生の受入れ体制を整備し、受入れを推進することで研究科学生の国際感覚を育てます。	4-(1)(3)
	(2)学部教育の国際化推進 学部生の国際交流・協働への参加も促進します。国際交流協定校との間の教育および研究の協働を拡大・深化します。学部生の中短期留学の受入れ体制を整備し、学生の国際感覚を育てます。	4-(1)
	(3)海外拠点校を中心とした協定校の整備 海外拠点校を中心とした協定校に設置されたコンタクトポイントへ、名古屋市立大学の教職員を派遣し、協働作業を推進します。	4-(3)
	(4)学部専門英語教育の充実 英語ネイティブスピーカーによる学部専門英語科目の実施により英語教育の充実を図ります。これにより、学部学生の国際交流の充実・活発化の土台となる英語力の向上に役立てます。	4-(1)
医療	(1)高度医療人材(薬剤師)の育成 医療系学部連携教育を、高学年の学習でも連携して行うプログラムを実施し、臨床実習を終えた学生、大学院生に附属病院群におけるアドバンス研修を可能にします。これにより、教育力、研究力、人格を兼ね備えた高度な臨床能力を有する薬剤師の育成を目指します。	5-(5)
	(2)最先端医療に貢献する薬学研究の推進 若手薬学研究科の教員と附属病院群スタッフとの積極的な交流を進め、臨床教育や医療関連研究の協力を容易にし、薬学研究科の医療教育・研究レベルアップを目指します。	5-(5)
経営基盤	(1)多様な外部研究資金獲得の取り組み 教育・研究の質のさらなる向上のため、外部有識者によるアドバイザー委員会を設置し、外部資金の獲得などの多様な財源の確保を目指します。	6-(2)
	(2)既存の研究施設等の整備と有効活用による長寿命化 既存の研究施設等の整備と貸与促進等による有効活用により、長寿命化と新たな自己収入の確保を図ります。	6-(2)(5)
組織マネジメント	(1)戦略的な人材確保の推進 教員の研究能力を高めるために、教員業績評価を研究費配分等に反映させます。実務家教員による教育、研究ニーズの把握、トランスレーショナル・リサーチの推進による研究開発の社会実装を進め、社会の変化に柔軟に適應できる組織づくりに向けて、積極的に企業ノウハウを取り入れていきます。	7-(2)
	(2)ダイバーシティの推進 すべての人が活躍するために、子育て世代や介護世代などそれぞれのライフステージに沿った働き方が可能な職場環境づくりを推進します。働き方改革により職場の魅力を高め、優れた教職員を確保します。	7-(3)
MIRRAへの展開	(1)職場環境の改善と効率化 研究者人口を増やすことで、柔軟な人事配置や機器の運用を行い、現職の研究者(教員やポスドク、研究員)やミライの研究者にとって、より研究に専念できる環境を作り出します。これにより薬学部の発展、さらには、大学全体の発展につなげます。	8-(1)(2)
	(2)同窓会と共同した事業の検討 薬学部の同窓会(薬友会)と連携し、附属薬局等の新たな事業に取り組むことを目指します。新事業は将来、薬学部としてのアピールポイントとなり、また良質な医療教育にもつながり優れた医療人養成や近隣住民への社会貢献にもなることが期待されます。	8-(4)(5)
	(3)名古屋市と連携した医薬看ネットワークでの社会貢献 薬学部も医療人を育成する学部であり、医療としての社会貢献が可能です。今後生じる可能性のある災害時なども見据えて、今後の未知の災害時にも対応できるように、附属病院群、医学部、看護学部ならびに名古屋市と連携を強化していきます。	8-(6)

経済学研究科未来プラン2021

～地域・企業・人のコンピテンシー向上プラン～



■ 経済学研究科未来プラン2021で目指すこと

- ①教育研究施設の整備を進め、魅力ある教育環境をつくり、アクティブな学びを実現していきます。
- ②経済学研究科・経済学部の教職員・学生は、新しい時代のプレイヤーとして役割を果たし、社会貢献を実現します。

■ 経済学研究科未来プラン2021 概要一覧

領域	プラン	対応する名市大 未来プラン 2021番号
教育	(1) 教育研究施設の整備 教育研究施設の整備により、魅力ある教育環境をつくり、データ分析能力に長けた人材を育てていきます。	1-(5)
	(2) 柔軟な教育プログラム 多様な学修者のニーズを考慮し、時代の変化に対応した柔軟な教育プログラムを構築します。	1-(2)
	(3) 経営者コースとアントレプレナーシップ教育 社会のニーズに合致し、地域の経済・経営を支える未来志向の人材を養成します。	1-(1)
	(4) 学修をサポートするシステムの整備 BYOD(Bring Your Own Device)の導入にあたり、情報リテラシーを強化しながらそれらを有効活用するための方法を検討します。	1-(5)
	(5) 実践性の追求 学際性によって、地域社会をはじめ、幅広いフィールドにおいて、実践性の高い問題解決力を培うための教育プログラムを提供します。	1-(2)
	(6) 主体性ある学生の育成 学生が自ら研究能力を高めると同時に、研究成果を発信できる場を拡充します。	1-(3)
	(7) 研究者育成の強化 本研究科からの研究者輩出を強化します。	1-(3)
	(8) 教育力の向上 FD活動により教員への情報提供、教員間の情報共有を進め、教育力を向上させます。	1-(4)
	(9) 高大連携の強化 現代の諸課題に取り組む機会を大学生および高校生に提供し、協働の機会を提供します。	1-(7)
研究・産学官 イノベーション	(1) データ分析研究の活発化 データサイエンス学部(仮称)と連携して、データ分析に関する研究を活発に行います。	2-(1)
	(2) 経営者コースとアントレプレナーシップ研究の充実 経営者コース担当教員を中心に、経営者・アントレプレナーシップに関する研究を活発に行います。	2-(5)
	(3) 都市政策研究センターの拡充 都市政策研究センターに所属している教員を中心に、都市政策に関する研究を活発に行います。	2-(1)

領域	プラン	対応する名市大 未来プラン 2021番号
研究・産学官 イノベーション	(4)医療経済経営研究の活発化 医療経済マネジメントコース担当教員および医療経済経営研究会の連携を強化し、医療経済経営に関する研究を活発化します。	2-(1)
	(5)外部資金の獲得 全教員が外部資金の獲得をめざします。	2-(8)
	(6)質の高い研究成果の増加 国際共著論文・Top10%論文や、高く評価される日本語の論文・著書の増加をめざします。	2-(6)
	(7)若手教員の育成 若手の研究活動を支援するとともに、次世代の研究科運営・大学運営を担う人材を育成します。	2-(6)
社会貢献	(1)SDGs未来都市ダブル・ブランド戦略の確立～NAGOYAブランド×名市大ブランド～ 「SDGs未来都市」名古屋の実現に向け、経済学部の学生、教職員が関わる産学官連携プロジェクトを通じ、持続可能な産業・地域に貢献します。	3-(1)
	(2)名古屋市シンクタンク機能の強化 名古屋市の課題に対して、名古屋市に蓄積されたビッグデータを活用したエビデンス・ベースの政策提言・学修プロジェクトによる課題解決等を目指すなど、シンクタンク機能を強化します。	3-(4)
	(3)市民が市民を支え、育てる社会づくりの拠点 学部・研究科の教育資源に外部の実践知を取り入れ、次世代育成を目指した共有環境を創出します。	3-(2)
	(4)新産業の創出基盤となる人材の戦略的育成機関 産学協同教育スタイルで、新産業の起点となる人材のコンピテンシー・ラーニングを支援します。	3-(3)
国際化	(1)学生と教員のための国際化サポート 経済学研究科・経済学部の現在と未来の学生が、国際的な環境のもとICTを活用し学びを充実できるようサポートします。経済学研究科教員が、国際的な環境のもと研究教育活動を充実できるようサポートします。	4-(1)
	(2)国際交流協定校との研究教育交流の促進 経済学研究科・経済学部の学生と教員が、海外拠点校を中心として国際交流協定校との研究や教育の交流を通じた国際化に取り組みます。	4-(3)
	(3)国際化と地域のための実践的な教育研究活動の促進 経済学研究科・経済学部の学生と教員が、地域の国際化や多文化共生に資する教育研究活動に積極的に取り組めるようサポートします。	4-(4)
医療	(1)医療経済・経営の研究・教育の進化 医療経済・経営およびこれらに関連する諸問題等の研究を行うとともに、医療機関の経営問題について経済学・経営学の視点から解決できるような人材の育成を目指します。	5-(5)
経営基盤	(1)効率的な施設・設備の利用 滝子キャンパス或いは大学全体での教室等の有効利用を行います。	6-(5)
	(2)弾力的な予算配分 共通的な研究資産（データベース、学術雑誌等）を購入するため、研究費や教育費の有効な使い方を導入します。	6-(4)
組織 マネジメント	(1)戦略的な教員の採用人事 新規分野や重点分野に対応した採用人事を行うとともに、実務教育を強化するために特任教授を増やします。	7-(2)
	(2)戦略的人材確保・育成・配置 人材マネジメントの強化により、教員の研究活動を支援するとともに、研究科運営・大学運営を担う人材を育て、成長する組織を実現します。	7-(2)
への展開 MIRAI	(1)同窓会との協働 経済学部の同窓会（瑞山会）と連携して、学部生をサポートする仕組みを取り入れながら、愛校心の醸成に努めていきます。	8-(5)

人間文化研究科未来プラン2021

～名古屋都市圏の課題の解決と社会の刷新を図る
人文社会学の研究・教育の発展プラン～



人間文化研究科未来プラン2021で目指すこと

人間文化研究科では、名古屋都市圏の課題の解決と刷新を図る人文社会学の研究と教育を発展させるために、2030年に向けて26のプランを立て、革新的・先進的な研究を国内外に向けて発信し、教育と地域連携・社会貢献を進展させます。

人間文化研究科未来プラン2021 概要一覧

領域	プラン	対応する名市大 未来プラン 2021番号
教育	(1) ESD・SDGsの研究・教育の進化 学部の理念であるESDをさらに発展させるため、ESDにかかる人文社会学研究を推進し、教育カリキュラムを見直し、SDGsの達成に貢献する人材育成を推進します。	1-(1)(3)(7)
	(2) 魅力ある各種資格課程の発展 学部・大学院で取得できる各種資格課程をより魅力あるものにするために、カリキュラムの検討と支援管理体制の強化を図ります。	1-(2)(3)(5)
	(3) 情報リテラシーを育む教育とICTを活用した学修環境の整備 情報リテラシーを育むために、新たな教育プログラムの実施、STEAM(Science、Technology、Engineering、Art、Mathematics)教育の導入、学内のデータ・サイエンス分野と連携した人文社会学の教育・研究を実施します。加えて、BYOD(Bring Your Own Device)の導入と遠隔授業等のICTを活用した多様な授業形態に対応するために、学修環境を整備します。	1-(2)(6)
	(4) 高大連携の推進 名古屋市立高校との推薦入試、学部教育の紹介、学部生との交流機会を通して連携を推進します。	1-(7)
	(5) 入試改革の実施 少子化に伴う大学生人口の減少に対応した学部・大学院入試の改革を実施します。	1-(1)
	(6) 教育力の向上 FDの定期的な実施により、教員の教育力の向上を図り、新たな教育改革につなげます。	1-(4)
研究・産学官イノベーション	(1) 学内外の連携強化に基づく異分野融合の革新的研究・教育 学内の附属病院群、都市政策研究センター、他研究科・学部をはじめ、学外の諸機関との新たな連携強化によって、革新的な研究・教育を進展させます。	2-(1)(2)
	(2) 学内外の連携強化に基づく都市課題解決のための研究・教育 学内の経済学研究科、芸術工学研究科、看護学研究科、都市政策研究センター等と連携した都市課題解決のための研究・教育を推進します。	2-(3)
	(3) ESD・SDGsの研究・教育の進化(再) 学部の理念であるESDをさらに発展させるため、ESDにかかる人文社会学研究を推進し、教育カリキュラムを見直し、SDGsの達成に貢献する人材育成を推進します。	2-(4)(10)
	(4) 学外内の連携強化に基づく子どもの育成支援に関する研究・教育 名古屋市をはじめ、学内・市内の諸機関との連携した子どもの育成支援に関する研究・教育を推進します。	2-(3)
	(5) 学内外の連携強化に基づく「名古屋学」および名古屋の歴史まちづくりの推進 名古屋市をはじめ、市内の諸機関、学内では特に芸術工学研究科と連携した「名古屋学」および名古屋の歴史まちづくりに関する研究・教育を推進します。	2-(3)

領域	プラン	対応する名市大 未来プラン 2021番号
社会貢献	(1)SDGs未来都市の実現に向けた研究と教育の推進 SDGs未来都市の実現に向けて、教員の各専門分野に基づく名古屋市民への啓発活動を推進するとともに、SDGsに関わる教育を通して学生と市民との交流・協働を推進します。	3-(1)(4)
	(2)名古屋都市圏の市民教育の拠点となる研究・教育 名古屋市立高校との教育交流を推進するとともに、市民の「学び直し」ニーズ・生涯教育ニーズに対応した社会貢献を進めます。	3-(1)(2)(3)(4)
	(3)名古屋市への専門知の提供と人材交流の推進 名古屋市に本研究科の各分野の専門知を提供し、市職員との人材交流を進めます。	3-(4)
国際化	(1)教育と研究の国際化のしくみ作り 本学部・研究科の教育と研究の国際化を図るために、ICTの活用と海外への教育・研究活動の発信を図ります。	4-(1)
	(2)名市大アジア拠点校との学術交流の強化 名市大のアジアの拠点校との学術交流やフィールドワーク実習などの教育、オンラインを利用した学生・教員の受入れを推進します。	4-(1)(3)
	(3)地域の国際交流と多文化共生を推進する研究と教育の促進 名古屋市国際交流課や名古屋国際センターと連携した実践教育や学際的な共同研究を推進します。	4-(1)(3)
医療	(1)附属病院群との連携の推進 附属病院群との連携をこれまで以上に推進します。	5-(7)
経営基盤	(1)外部資金の獲得の促進と間接経費の有効活用 外部資金の獲得を促進し、間接経費を有効活用して、研究環境を向上させます。	6-(2)
	(2)施設・設備の共用の促進 大学全体および滝子キャンパス内での施設・設備の共用を促進し、効率化を図ります。	6-(5)
組織マネジメント	(1)将来構想に則した教員の採用人事 研究科の将来構想に則し、研究科・学部の特徴を強化できる教員の採用人事を行います。	7-(2)
	(2)若手教員の育成 若手教員の研究活動を支援し、新任教員がスムーズに教育・運営業務を担えるようにサポートを行います。	7-(2)
	(3)教職員のワーク・ライフ・バランスに考慮した運営 研究科の教職員のワーク・ライフ・バランスに考慮した運営を行います。	7-(3)
	(4)組織マネジメントにおけるICTの活用 ICTを活用して、効率的な組織運営を行います。	7-(4)
MIRAIへの展開	(1)名市大人文社会学の強力な発信 人間文化研究科教員の研究活動を中部圏のみならず、国内外に向けて、多様な手段を用いて発信します。	8-(4)
	(2)同窓会と在校生との交流の促進 人文社会学部同窓会瑞桜会、大学院同窓会、旧名古屋市立大学保育短大同窓会さわらび会、旧名古屋市立女子短期大学同窓会ひさぎ会と在学生が交流するホームカミングデイを定期開催すると共に、資格を取得し専門職に就いた卒業生の卒後教育や卒業生による学部生キャリア教育を推進します。	8-(5)
	(3)名古屋市や関係機関との連携の進化 本研究科が子どもの育成支援、都市政策、国際化の分野で名古屋市や関係機関と培ってきた連携を一層進化させます。	8-(6)

芸術工学研究科未来プラン2021

～デザインで社会創発に挑戦する芸術工学～



■ 芸術工学研究科未来プラン2021で目指すこと

芸術工学部および研究科は、持続可能で多様性を尊重した創造的総合大学「名市大」の発展に対して、「デザイン」の視点と技術をもって寄与します。加速する少子高齢化、エネルギー供給不安や自然災害の恐怖に対峙し、ICTの進化とSociety5.0時代の構築に向けて、「コトのデザイン」から「モノのデザイン」まで、戦略的ビジョンを打ち出して、社会創発に挑戦します。人間を深く理解したうえで、デザインの先端技術を活用して、多様な人々が互いの価値観を尊重し、世界の誰もが平和と豊かさを享受できる持続可能な社会作りに貢献します。

■ 芸術工学研究科未来プラン2021 概要一覧

領域	プラン	対応する名市大未来プラン2021番号
教育	(1) デザインで社会創発する人材を育成 人間社会についての広い視野と高い感性、科学技術に関する知識と技術をもとにして、多面的諸要求、機能をコーディネートし、調和のとれたデザインを実現する能力を備えた人材を育成します。	1-(1)(3)
	(2) 新しい学部基盤カリキュラムの構築 「デザイン」をキーワードとして理論に裏付けられた実践性を重んじる芸術工学部では、人々が安心して気持ちよく真に豊かな文化的生活を享受するために、人間理解を前提とした高いビジョンを提供する新カリキュラムを構築します。	1-(1)(2)(3)(4)
	(3) 先端技術に沿った学修環境を提供 世界の潮流に即し、今後起こり得る様々な問題に対して幅広い視点でデザインを展開できるよう、質の高い教育を提供します。	1-(4)(5)(6)
研究・産学官イノベーション	(1) 都市環境と健康福祉に貢献する先端研究 戦略的ビジョンと先端技術を基盤に、人間理解、社会、制度、価値観を含む様々な要素を視野に入れて、新たなデザイン研究に挑戦します。	2-(1)(3)(4)
	(2) 高い視点に基づいた共創の場づくり 社会の課題解決に貢献するため、産業界との連携を発展・継続させ、高い視点に基づいた共創の場づくりを目指します。	2-(6)(9)(10)

領域	プラン	対応する名市大 未来プラン 2021番号
社会貢献	(1)「SDGs未来都市」名古屋をデザイン 持続可能で多様性を尊重しあう「SDGs未来都市」名古屋を目指して、多彩な研究成果をもとに貢献します。	3-(1)(2)(4)
	(2)デザイン研究を市民に発信 クリエイティブ・デザインシティをさらに発展させるような、創造性あふれる魅力的な都市づくりに貢献します。	3-(3)
国際化	(1)国際連携の進化と展開 海外拠点校・協定校との連携を通じて、国際社会共通の課題であるSDGsの達成に向けて、研究・教育・社会貢献の観点から包括的に戦略を立ててビジョンを示し、この実現に努めます。	4-(1)(3)
医療	(1)医療環境向上に貢献 療養環境や医療従事者のための快適労働環境構築をめざしてデザインで貢献します。	5-(5)
経営基盤	(1)持続的な研究費の獲得 より充実した教育・研究環境を構築するために、多様な手段による研究費・予算獲得を目指します。	6-(2)
	(2)長期展望に基づく施設メンテナンスの実施 少人数による実践的教育環境を維持し、一方で他学部・研究科との設備・教育資源の共同利用によってコスト削減に努めます。	6-(5)
組織マネジメント	(1)人材の確保・育成 幅広い視点を提供できるような高いビジョンをもつ人材の育成および獲得に努めます。人材マネジメントを強化することで、成長し続ける芸術工学部を実現します。	7-(3)
MIRARへの展開	(1)時代の一步先を開拓 18歳人口の減少に伴う厳しい大学間競争を勝ち抜くため、デザインをキーワードとする魅力的なプログラムを提供することで、名古屋市の高等教育施策に貢献し、市民からさらに愛され利用される芸術工学部へ進化します。	8-(2)(5)
	(2)キャンパスの最適活用 学生がキャンパスにそれぞれのワークスペースを確保して実践的教育を受ける環境を維持し、一方で複数キャンパスとの協働によって設備・教育資源をより効率的に活用します。	8-(3)

看護学研究科未来プラン2021

～足元を固め未来を見つめる看護学研究科～



■ 看護学研究科未来プラン2021で目指すこと

学部においては、現在検討している2023年度からの入学定員増を実現し、質の高い学部教育を軌道にのせ、確実に優秀な看護職人材を輩出します。また、大学院においては、実践コースや博士後期課程の充実を図り、実践家や研究者・教育者の育成に力を入れ、東海地域の看護学系大学の中心となります。さらに、海外留学生や社会人入学などを活用し、多様な背景を持つ人々を迎え入れることを促進します。

■ 看護学研究科未来プラン2021 概要一覧

領域	プラン	対応する名市大 未来プラン 2021番号
教育	(1) 新カリキュラムによる教育の充実と教育体制の強化 2022年度の新入生より新カリキュラムを開始します。各教員がPDCAサイクルをまわしながら新カリキュラムを推進し、特に本学の教育の特長を活かして新設した「多文化健康支援実習」の教育体制を強化して、教育の充実をはかります。また、2023年度から入学定員増を図ることに併せて、時代のニーズに合致した領域の再編成および専任教員増員による教育体制強化を目指します。	1-(2)
	(2) 看護学教育認証評価の受審準備 看護学教育認証評価の受審に備えるため、2022年度から開始する新カリキュラムについて、各教員がその成果を可視化しつつ、改善に繋がります。一方で、受審に向けて情報収集を行います。	1-(2)
	(3) 外国人・社会人の学修ニーズへの対応 大学院における多様な学びを支援するため、外国人が受験しやすくなるよう体制を整えるとともに、社会人学生にとって魅力ある制度やコースを構築します。	1-(2)
	(4) 附属病院群との連携強化と課題解決型FDによる教育支援システム構築 東部医療センター・西部医療センターが大学病院化したため、これまでの名市大病院と看護学部との連携を東部医療センター・西部医療センターにも拡げて、附属病院群との教育支援システム構築を目指します。さらに、看護学部での課題に焦点をあてたFD研修会を実施し、教育力を効率的に高めます。	1-(4)
	(5) 臨床判断力と実践力獲得のための教育・学習環境の整備 臨床判断力と実践力をもった看護職育成のために、学生が自主的・自律的に学べる学修環境を整備します。シミュレーション教育は、学生が臨床判断力を獲得するために効果的であるため、これを積極的に実施します。	1-(5)
	(6) ICTを活用した学修環境の充実および指導の進化 教育の質を担保できるように、時代の流れに応じてICTを活用した効率的な指導を積極的に進めていきます。一方、社会人学生が多い当研究科の大学院生の主体的な学びをサポートするため、ICTを活用した学修支援環境をブラッシュアップします。	1-(6)

領域	プラン	対応する名市大 未来プラン 2021番号
研究・産学官イノベーション	(1) 優秀な看護職人材の大学院進学サポート 優秀な看護職人材が大学院に進学できるように、進学の数年前から様々な情報提供、多角的サポートを行い、大学院進学が円滑に行えるようにします。	2-(6)
	(2) 若手教員の持続的な外部研究費の獲得支援 講師・助教などの若手教員が研究者としてのスタートを切ることができ、さらに継続して外部研究費が獲得できるように支援します。	2-(8)
	(3) 学内外との共同研究の促進 看護研究推進センターをハブとし、他大学や他研究科との共同研究を促進します。	2-(7)
社会貢献	(1) 地域における看護の質向上に資する研修・研究事業の展開と評価 臨床現場への出前授業(遠隔講義含む)を活用し、臨床の看護職の方々への看護研究サポートを発展させていきます。	3-(3)
	(2) 地域貢献事業の継続と発展 地域連携セミナー、なごや看護生涯学習公開講演会・セミナー、昭和生涯学習センター共催講座、こころの看護相談などの地域貢献事業の継続と発展の検討をします。	3-(4)
国際化	(1) 広報の充実による看護学部の魅力の国内外への発信 看護学研究科としての取り組み内容(教育・研究・社会貢献)についての先駆的な取り組みを国内外に発信していきます。	4-(1)
	(2) 国際化ニーズに対応するための教員の教育・研究力向上 国際的な研究者のネットワークを発掘、構築、発展できる基礎力を教員が身に付けることを目指します。また海外の研究パートナーを見つけ、つながりやすい機会を整備します。	4-(1)
	(3) 多様な背景を持つ人びとやコミュニティへの健康支援に関する教育の取り組み 国内外における多様な健康ニーズへの理解を促進するフィールドを学生に提供し、個人と集団への健康支援ができる人材育成をめざした教育に取り組みます。	4-(3)
	(4) 大学院における国際化の推進 大学院生自らが未来に向けて、国際的な研究者として自立できるような研究環境を整備します。国際的な授業、セミナーの互換制度の充実に向けて、拠点校・提携校との相互交流・ネットワーク構築を拡充します。	4-(3)
医療	(1) 附属病院群への優秀な看護職人材の輩出 現在検討している2023年度からの入学定員増を実現し、将来の附属病院群の中核を担う、研究マインドを持った優秀な看護職人材を輩出します。	5-(5)
経営 基盤	(1) 寄付金の積極的な獲得 看護学部独自の学生支援を行うため、名古屋市立大学看護学生育英奨学金を創設し、積極的な寄付募集を行います。	6-(2)
組織 マネジメント	(1) 新しい人事評価システムの作成 研究・教育・運営などに関する実績を、会議参加、講義、実習、論文執筆、院生指導の日時や数を入力することで自動的にカウントするシステムなどに変更し、年度末にまとめて入力する教員の負担減および正確な評価システムの構築を目指します。	7-(2)
MIRAIへの展開	(1) 看護学部2キャンパスのシームレスな活用の実現 現在検討されている看護学部の入学定員増の後には、看護学部は桜山キャンパスと葵キャンパスの2つのキャンパスで専門教育を行うようになります。これは従来の教養教育と専門教育を異なるキャンパスで行うことよりも、より緻密なキャンパス間の配分計画を必要とします。そこで、従来以上にICTを充実・活用することで、1つのキャンパスでの専門教育と遜色ない教育環境を実現させ、さらに、豊かになる施設インフラを活かしてMIRAIへ向けた教育研究的取り組みを促進することを目指します。	8-(3)
	(2) ブランド力強化による看護学部のプレゼンス強化 学生への手厚い指導により、看護師・保健師・助産師の国家試験合格率100%を継続します。また、市大看護学部独自のマスコットキャラクターを作成することにより、数多く存在する看護学部の中でも特色ある大学としてアピールします。	8-(4)

理学研究科未来プラン2021

～リーディング・サイエンス・プランⅢ～



理学研究科未来プラン2021で目指すこと

小さく生んだ研究科と学部を大きく育てるとの目標のもとに、理学教育体制の強化、異分野融合型の革新的研究の推進、優秀な若手研究者が集まる魅力的な研究環境の構築などに取り組みます。また、これらの施策をできる限り早期に実現するため、全学的なキャンパスプランのもとで、部局関連の建物や教育研究設備の整備・拡充を急ぎます。

理学研究科未来プラン2021 概要一覧

領域	プラン	対応する名市大 未来プラン 2021番号
教育	(1) 社会で求められる理系人材の養成を目指した理学教育体制の強化 イノベーションを創出できる理系人材の育成を目指して、理学の専門科目の授業内容を充実させます。学部教育においては3モデルコース制を学科内に導入し、将来的には2学科制を目指します。また、社会や企業から理数系や情報関連のリテラシーが理系・文系を問わず求められており、教養教育における理数・情報系の基礎科目を強化し、基礎教育に着実な貢献ができる体制づくりを目指します。	1-(2)(3)(4)
	(2) 情報教育の高度化・体系化による高度情報人材の育成 社会の様々な場面でAI、IoT、ビックデータを活用できる高度情報人材の育成が求められています。データサイエンス学部(仮称)や高等教育院など他部局とも連携して、教養、学部、大学院のそれぞれのレベルにおける情報教育を時代に合わせて高度化・体系化します。	1-(1)(6)
	(3) 教職課程の拡充による時代が求める学校教員の養成 学校教育の現場では、学習指導要領による画一的な指導より、生徒個人の能力や希望に沿った柔軟な教育が求められ、一部先進校ではSSHプログラムによる高度な教育課程も組まれています。このような時代の要請に応えるために、理学の幅広い知識を俯瞰的に修得し、かつ専門分野の研究力も備えた教員を学部・大学院の一貫した教育体制のもとで養成し、名市大ブランドのスーパー理系教員として社会に送り出します。	1-(4)(7)
研究・産学官イノベーション	(1) 研究科横断的な研究拠点の構築と異分野融合型の革新的研究の推進 自然科学や形式科学の様々な専門分野の教員が所属する本研究科の特徴を生かして、生命科学・物質科学・数理情報科学の3分野間、およびこれらの分野と他研究科間の学際融合により、新しい研究領域の開拓を目指すような研究拠点を構築し、研究成果を戦略的に発信します。	2-(1)(4)(7)(8)(9)
	(2) 優秀な大学院生や若手研究者が集まる魅力的な研究環境の構築 学生や若手研究者が能動的に学修できる環境を整えます。また異なる分野間で活発な研究交流を促し、優れた研究成果を挙げた者を励ます仕組みを作ります。	2-(6)

領域	プラン	対応する名市大 未来プラン 2021番号
社会貢献	(1) 名古屋市と連携した産学官連携体制による地域課題の解決と社会還元 名古屋市の様々な機関や市内企業等との共同研究や協同事業を実施し、AI、IoT、ビッグデータ関連あるいはSDGs関連の地域課題の解決に貢献するとともに、得られた成果を「サイエンスカフェ in 名古屋」などの機会を通じて社会還元します。	3-(1)(4)
	(2) 小中高接続による情報化社会の実現に向けた取り組み 小中高でのプログラミングを活用した理系教育の充実化が求められています。データサイエンス学部(仮称)や高等教育院など他部局とも連携して、小中高でのプログラミングを活用した理系教育との接続を図り、情報化社会の実現に向けた社会貢献を果たします。	3-(2)
国際化	(1) 部局の国際化の総合的推進 部局構成員(学部生、大学院生、教員、事務員等)の国際力向上に資する取り組みを行うとともに、すでに存在する国際交流や国際共同研究の相手校との間で、オンライン通信を活用した学术交流活動を実施し、最終的に国際共著論文数の増加などの成果につなげます。	4-(1)(3)
経営基盤	(1) 多様な財源の確保に向けた取り組み 教育・研究の質のさらなる向上のため、外部資金の獲得や、学生増による収入の増加など、多様な財源の確保を目指します。	6-(2)
組織マネジメント	(1) 若手教員の積極的採用による研究教育体制の活性化 将来有望な若手教員の講師・助教などでの積極的な採用を行います。また教員の職階比率を見直し、独立研究室制から緩やかな連携研究室制への移行を行います。	7-(1)(2)
	(2) 教育研究支援体制の充実と効率化 教員以外の職員(技術職員や事務職員等)の技術向上を支援することにより対応可能な業務の幅を広げます。また教員と職員との業務上の役割分担について検討し、全学および部局内の各種委員会の活動内容の精査を行うことで、部局や大学全体の教育研究支援体制を効率化します。	7-(1)(2)
MIRAI への展開	(1) 卒業生との継続的な交流を通じた部局プレゼンスの向上 社会で活躍している学部卒業生・大学院修了生は在学生にとって身近で大きな目標です。同窓会と協力して卒業生と在学生の交流を深め、在学生を励ましてもらえる取り組みや卒業生に本部局の卒業生であることを誇りに感じてもらえるような取り組みを実施していきます。また、寄付金などを活用して在学生を支援できる制度を設けるとともに、学生のキャリア教育を強化することで、出口における満足度の向上に取り組めます。	8-(5)

名市大病院未来プラン2021

～未来かがやきプラン～



■ 名市大病院未来プラン2021で目指すこと

名古屋市立大学医学部附属病院群(以下、「附属病院群」という)がトップレベルの高度先進医療の市民への提供を行い、超高齢社会において健康長寿を推進するための予防医療や地域包括ケアシステムを深化・推進することで、「なごや医療モデル」を構築し、名古屋都市圏においてリーダーシップを発揮します。また、これらのことを実現するために必須となる優れた医療人の育成や、質の高い医療や研究を提供する組織の構築を行い、さらには、安定した経営基盤の確立を目指していきます。

■ 名市大病院未来プラン2021 概要一覧

領域	プラン	対応する名市大未来プラン2021番号
医療	<p>(1) 約1,800床の病床を活かした医療体制の強化と高度先進医療の提供</p> <p>大学病院としての高度先進医療に加えて、救急・災害医療を強化することによって名古屋市民の幅広い医療ニーズを満たし、名古屋都市圏の医療を牽引するとともに、地域の将来を支える医療人の確保と養成を担います。質の高い医療を市民に提供することで、附属病院群が一体となって、高度かつ安全で開かれた医療を提供し、名古屋都市圏のリーダーとしての立場を確立します。</p>	5-(1)
	<p>(2) 超高齢社会における医療体制の提供と地域医療への貢献</p> <p>附属病院群が一体となり、急性期から在宅医療に至るまで、医療・介護・福祉・回復期医療・民間医療機関に加えて、行政・教育といった各機関との緊密な連携体制を整備し、「循環型の地域包括ケアシステム」を推進し、「なごや医療モデル」の構築に取り組みます。</p> <p>名古屋市との連携を強化し、少子高齢化・国際化等の医療需要に応えつつ、地域や在宅での症状管理とQOL向上に貢献することにより、治療と予防の両輪をまわし、人生100年時代を生涯現役で過ごせる社会づくりに貢献します。</p>	5-(2)
	<p>(3) 高度先進医療提供のための病院機能の強化</p> <p>卓越した先端医療を創出して高度先進医療を推進するとともに、臨床研究の活性化に向けて附属病院群全体で積極的なインフラ整備と人材登用を行います。</p> <p>特に、がん医療の分野では、がんゲノム医療、細胞・免疫療法、支持・緩和医療、高精度放射線療法等を含めたがん治療の研究や、小児・AYA世代をはじめとするがん患者への支援に取り組みます。</p> <p>また、高齢者医療のニーズに応え、脳卒中・循環器病に対する予防から高度救命治療までのシームレスな医療構築の研究を進めることに加えて、高齢者等の健康長寿に寄与する先進リハビリテーションの開発・発展を図ります。</p> <p>附属病院群は、高度先進医療提供のための病院機能を強化するとともに、それを支える研究面でも名古屋都市圏のトップを目指します。</p>	5-(3)

領域	プラン	対応する名市大 未来プラン 2021番号
医療	<p>(4) 救急・災害医療機能の強化</p> <p>高齢者人口の増加に伴い増え続けている救急搬送件数に十分対応が可能であることに加えて、新型コロナウイルスの流行や南海トラフ巨大地震発生などの非常事態・災害時には最前線の病院として役割が果たせるように医療機能を強化します。</p> <p>平常時と非常事態・災害時のバランスを考えた救急・災害医療センターの整備を行い、大学病院として救急災害医療を充実させ、救急災害医療の砦として市民の安心と安全を担います。</p> <p>また、救急・災害医療機能の強化の基盤となる診療体制の充実と多職種の連携を強化するため、消防局を始めとして、名古屋市各局や附属病院群の連携強化を図るとともに、救急・災害医療に強い医療人の育成に努めます。</p>	5-(4)
	<p>(5) 優れた医療人の育成と質の高い医療を提供する組織の構築</p> <p>高度先進医療を実践する高い専門性と倫理観を持ち、名古屋都市圏においてさまざまに活躍できる医療人を育成します。</p> <p>多様性を活かした働き方の推進と個人を尊重する文化の醸成によって、誇りと愛着を抱くことのできる組織の構築を目指します。</p> <p>高度かつ安全で質の高い医療を安定して提供できる体制を進化させ、名古屋市民の健康と幸福に貢献します。</p>	5-(5)
	<p>(6) ビッグデータ・高度情報技術・ロボット技術の利活用</p> <p>附属病院群の臨床現場の活用により、それぞれがもつビッグデータを、有効かつ安全に研究・活用できるシステムを構築し、データサイエンス学部(仮称)との連携を始めとした先進的な取り組みを積極的に導入します。</p> <p>高度情報化を進め、医療教育や研究のための体制を充実させ、高度情報技術・遠隔診療・ロボット技術などを利活用した安全で開かれた先端医療の実現で、日本と世界をリードします。</p>	5-(6)
	<p>(7) 臨床研究・治験ネットワークの構築</p> <p>附属病院群を活用した臨床研究・治験ネットワークの構築を始めとした臨床研究・治験のための環境を整備するとともに、大規模国際臨床研究・医師主導型治験を推進し、医療技術の開発や研究成果の還元を通じて名古屋市民の健康・福祉・幸福に貢献します。</p> <p>また、外部機関との人材交流を促進し、附属病院群の研究力の強化を目指します。</p>	5-(7)
	<p>(8) 安定経営のための経営改革・組織改革の推進</p> <p>ガバナンスを強化することにより、人員・設備・資金の経営資源を無駄なく活用し収益性を高めます。</p> <p>外部環境の変化に柔軟に対応し、診療収入の確保や業務の効率化を図り、新たな投資に繋がります。</p> <p>積極的で継続的な経営改革や組織改革を進め、経営の安定を図ります。</p>	5-(8)

名市大東部医療センター 未来プラン2021



～ Team Operations Boosted Unite NCUEMC towards the Future ～

■ 名市大東部医療センター未来プラン2021で目指すこと

大学病院として、①高いレベルの先進医療を市民の皆様へ提供し、「断らない救急」を目指し、その最前線に立ちつつ、第二種感染症指定医療機関としての役割を確実に果たします。また、優れた人材を育成するとともに、研究を推進し、新しい医療の創出を進めます。②戦略的に経営資源を投入し収益の向上を図るとともに、低コストで最大の効果を上げる経営改革を推進します。③地域医療支援病院としての側面から、在宅医療から急性期医療、急性期医療から在宅医療への双方向のスムーズな橋渡しに努め、「循環型の地域包括ケアシステム」を推し進め、市民の皆さまのお役に立ち、選ばれる病院を目指していきます。

■ 名市大東部医療センター未来プラン2021 概要一覧

領域	プラン	対応する名市大未来プラン2021番号
医療	(1) 附属病院群の連携を進め、一体となった運営の推進(ワンチーム!) ワンチームの大学病院群として、附属病院群の強固な連携構築を行います。人事交流・人材育成・設備投資による高レベル医療の均てん化を進め、その中で病院特性を創出します。さらに診療情報データを共有し、高度な臨床研究に資する環境を構築します。	5-(1)
	(2) 急性期から在宅まで「循環型の地域包括ケアシステム」の構築 患者中心の開かれた病院として安全で質の高い医療を提供し、循環型地域包括ケアシステムを確立します。患者フローの一元管理により、紹介元施設への迅速な情報提供、また逆紹介を可能とするプラットフォームを創り、地域医療支援病院として信頼度を高めブランド化を図ります。	5-(2)
	(3) 地域医療に根差した、市民・地域住民のためのがん診療の確立 地域の医療環境を鑑みた、市民・地域住民のためのがん診療を確立します。高齢者や複数の合併症を有するがん患者の治療を積極的に応需し、近隣病院との差別化を図ります。	5-(2)
	(4) 高度・専門医療のさらなる充実 高度・専門かつ急性期医療を担う病院として、さらなる機能強化を行います。 高度・専門医療の提供というニーズに応えるため、手術支援ロボットなどを含めた積極的な設備整備を進め、専門性先鋭化と戦略的資源投入により名古屋都市圏の医療水準の向上に貢献します。	5-(3)
	(5) 愛知県指定のがん診療拠点病院取得 がん領域において、必要な体制整備を行ない、手術、放射線治療、および薬物療法を効果的に組み合わせることによる先進的・集学的治療を拡充し、愛知県指定のがん診療拠点病院の取得を目指します。	5-(3)

領域	プラン	対応する名市大 未来プラン 2021番号
医療	<p>(6)救命救急センターの機能向上による名古屋都市圏でのブランド化</p> <p>「断らない救急」を目指し、積極的に救急患者を受け入れるのみならず、先進医療を提供します。教育・指導体制の充実・強化により専門医の養成を進め、急性心筋梗塞・急性大動脈解離に対する即時対応や、一次脳卒中センターコア施設としての脳卒中診療の充実などを図り、名古屋市北東部の救急医療の中心となりつつあります。</p>	5-(4)
	<p>(7)感染症指定医療機関としての機能の強化</p> <p>新型コロナウイルス感染制御に難渋する中で、名古屋市のウイルス感染症医療の中心的役割を担い、将来の感染症パンデミックに備えた体制整備を名古屋市との連携のもとに推進します。名古屋都市圏での感染症指定医療機関としての役割を確実に果たしていきます。</p>	5-(4)
	<p>(8)大規模災害に備える取り組みの強化</p> <p>附属病院群の連携を強化し、地域の医療機関とも円滑な連携を行い、市民に必要な医療を提供する災害対応システムを構築することで、感染症パンデミックも含めた災害時に対する強靱な組織創生を進めます。</p>	5-(4)
	<p>(9)高い専門性と倫理観を有する多様な医療人およびそのリーダーの養成</p> <p>高い専門性と倫理観を持って活躍できる多様な人材を育成し、質の高い医療を安定して提供します。すべての職種から職場として選ばれる病院、研修医・専攻医から研修病院として選ばれる病院を目指します。専門医取得後は附属病院群および地域医療でのリーダーを目指すためのキャリアパス支援を行います。</p>	5-(5)
	<p>(10)大学・研究機関へのビッグデータの提供および大学が持つ高度情報技術・ロボット技術の活用</p> <p>附属病院群がもつビッグデータを、有効かつ安全に研究・活用できるシステムを構築するとともに、得られた成果を市民へ還元します。</p>	5-(6)
	<p>(11)研究の推進と附属病院群のスケールメリットの活用</p> <p>附属病院群間の臨床研究ネットワークを構築します。1病院1診療科で実施していた臨床研究・治験を附属病院群全てで同時に実施可能なプラットフォームを創出します。</p>	5-(7)
	<p>(12)安定経営のための経営改革・組織改革の推進</p> <p>ガバナンスを強化し病院経営に精通した人材を確保・育成し、経営分析力を高め、先進的な経営手法を導入して収益の向上を図ります。安定した経営を基盤に高度・先進医療を推進して東部医療センターのブランド化を進め、病院の収益向上に循環するようなスキームを構築します。</p>	5-(8)

名市大西部医療センター 未来プラン2021

～セイブ・ライフ・プラン～



■ 名市大西部医療センター未来プラン2021で目指すこと

地域に根差した大学病院として高度かつ安心な医療を提供するため、地域医療機関との連携をさらに進め、地域医療の発展に貢献するとともに、地域がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センターとして、がん医療、小児・周産期医療の充実に努めます。また、大学病院として、充実した医学教育のもと、人間味豊かな優れた医療人の育成に努めるとともに、医学研究を推進し、新しい医療の創出を進めます。さらに、人員・設備・資金・情報の経営資源を効率的に活用し収益の向上を図るとともに、外部環境の変化に対応し、低コストで最大の効果を上げる経営改革を推進します。

■ 名市大西部医療センター未来プラン2021 概要一覧

領域	プラン	対応する名市大未来プラン2021番号
医療	(1) 附属病院群の連携による高度医療の推進と医療の質の向上 医療の質の向上に努めるとともに、医療ニーズに対応した適切な医療を提供します。	5-(1)
	(2) 地域医療連携の推進 地域医療支援病院として、地域の医療機関からの紹介患者に対する医療の提供や、医療機器の共同利用等、かかりつけ医の医療を支援するとともに、急性期から在宅医療に至るまで「循環型の地域包括ケアシステム」の構築を推進します。	5-(2)
	(3) がん医療の充実 最先端のがん治療を提供するため、陽子線治療を提供するとともに、国が指定する地域がん診療連携拠点病院として、各種がんに対する専門医療を提供するほか、外来から入院治療に至るまで一貫したがん医療を提供します。	5-(3)
	(4) 横断的な診療体制の構築による医療の質の向上 診療科や職種の枠を超えて、患者の症状に合わせた質の高い治療を連携して行います。	5-(3)
	(5) 小児・周産期医療の強化 地域周産期母子医療センターとして母体・胎児の異常や新生児・早産児に対する専門的な治療を提供するとともに不妊・不妊などニーズに対応した専門的医療を提供します。	5-(3)

領域	プラン	対応する名市大 未来プラン 2021番号
医療	<p>(6) 脊椎疾患医療の充実 高齢化により増加する脊椎疾患に対し、脊椎センターにおいて、患者の身体的負担の少ない手術を提供します。</p>	5-(3)
	<p>(7) 災害拠点病院としての医療機能の充実 災害拠点病院として、大規模災害時に、市民および近隣医療機関に対して、適切な医療およびサポートを提供できるように、災害対応体制を整備します。</p>	5-(4)
	<p>(8) 優れた医療人の育成と質の高い医療を提供する組織の構築 専門資格の取得・学会・研修への参加・研究活動の支援を行い、医療人の育成を図ります。また安全で質の高い医療を安定して提供できる体制を進化させることにより、医療安全の強化に努めます。</p>	5-(5)
	<p>(9) 働き方改革および女性の活躍推進 少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少や育児や介護との両立など、働く方のニーズの多様化に対応するため、仕事の効率化などによる働き方改革を実行します。また、女性が働きやすい環境を整備し女性の活躍を推進します。</p>	5-(5)
	<p>(10) 先端医療の実施 手術支援ロボットを導入し、からだへの負担が少ない低侵襲手術が可能となるほか、先進的医療機器の導入により先端医療を導入するとともに、附属病院群のスケールメリットを生かしてビッグデータの活用を図ります。</p>	5-(6)
	<p>(11) 臨床研究の強化 臨床研究の推進および産学連携のさらなる発展により、先進医療・新薬開発等の研究活動を活性化します。また、附属病院群間の臨床研究ネットワークを構築することにより一病院一診療科で実施していた臨床研究・治験を附属病院群全てで実施可能なプラットフォームを創出します。</p>	5-(7)
	<p>(12) 安定経営のための経営改革の推進 ガバナンスを強化することにより、人員・設備・資金・情報の経営資源を無駄なく活用し収益性を高めます。外部環境の変化に柔軟に対応し、診療収入の確保や業務の効率化を図ります。積極的で継続的な経営改革や組織改革を進め、経営の安定を図ります。</p>	5-(8)

高等教育院未来プラン2021

～自律的学修者の育成～



■ 高等教育院未来プラン2021で目指すこと

学生一人一人が、自らの未来に向かって必要な資質や能力を身に付けるとともに、自律的学修者へと成長できるよう、意欲的・主体的に学べる教育環境を提供します。

LMS(Learning Management System)や遠隔・オンデマンド授業の活用など教育のデジタル化を進め、データ駆動型の教育への転換を図ります。各種教育データを効率的に収集して、調査・分析し、客観的データに基づいた教育改革を進めます。

■ 高等教育院未来プラン2021 概要一覧

領域	プラン	対応する名市大 未来プラン 2021番号
教育	(1)教育分野におけるDXの推進 学修者本位の教育を進めるためには、学生の理解度に応じた授業の工夫や学修履歴を踏まえた履修指導が必要となります。教育分野におけるデジタル・トランスフォーメーション(DX)を推進して、学修データを効率的に取得できる体制を整えます。	1-(6)
	(2)教学IRの推進 各種教育データを効率的に取得し、学生の理解度に応じた授業の工夫や学修履歴を踏まえた履修指導など、個々の学生に寄り添う教育施策を実施します。	1-(3)
	(3)教養教育の大幅改革 2018年度に見直したカリキュラムポリシーや2019年度に定めた教学マネジメント基本方針を各授業科目に反映させます。Society5.0やSDGsに見られる社会情勢の急速な変化に鑑み、一般教養科目におけるカリキュラムの改革、改正を目指します。	1-(2)
	(4)高大連携事業の発展 高等学校と大学が互いの教育内容を深く知る取り組みを継続し、2021年度から実施している人事交流など高大接続を踏まえた教育分野での連携をさらに発展させます。	1-(7)

領域	プラン	対応する名市大 未来プラン 2021番号
社会貢献	(1)学修者本位の教育の実現 学生が自らの将来に向かって必要な資質や能力を身に付けられるよう、意欲的・主体的に学び、成長することができる教育環境を提供します。	3-(3)
	(2)課題解決型人材の育成 社会の様々な課題に目を向け、その解決に積極的に関わる人材を育成するため、自治体、企業などとの連携によるPBL教育を導入し、課題解決型人材の育成を目指します。	3-(3)
国際化	(1)グローバルシチズンシップの育成 地元経済団体と連携し、キャリア教育を充実させることで社会に対するより広い視野を養い、地球市民としての自覚を持ち、地球規模で活躍する意識を持った人材を育成します。	4-(1)
	(2)共生社会や国際化ニーズへの対応 国際交流センターと連携するなど教育分野における共生社会や国際化への取り組みを進展させます。	4-(1)
経営基盤	(1)TEEPの自立的運営 進化型実務家教員養成プログラム(TEEP)についてコンソーシアムを結成している3大学と専門コースを開設している他研究科と連携し、自立的な運営を目指すとともに、地域を支える人材を輩出します。	6-(2)
組織マネジメント	(1)体制の強化 各種教育データの収集・調査・分析(教学IR)機能やFDの推進など高等教育院の組織力の強化を図ります。	7-(2)
	(2)教育人材育成への学内連携強化 大学教員を目指す博士後期課程大学院生、ポスドクなどを積極的に教育補助スタッフとして採用し、教育経験を積ませるとともにより手厚い学部教育を推進します。	7-(2)
への展開 MIRAI	(1)教育現場での垣根を超えた交流 一般教養科目、キャリア教育などにおいて他学部生や卒業生等との交流機会を活用して、多様な考え方に触れさせるとともに、名市大の一員であるとの意識を育みます。	8-(5)

社会貢献未来プラン2021

～地域に根差し、世界に発信するNCUの挑戦～



社会貢献未来プラン2021で目指すこと

名古屋に根差す公立大学として、以下の視点で社会課題の解決に貢献します。

- ①SDGsセンターを本学におけるSDGs推進のプラットフォームとして、名古屋市をはじめとした様々な機関と連携しながら、SDGsの達成に貢献します。
- ②市民・団体との協働・協創による地域活動、および将来の地域貢献を行う人材育成を促進する子育て・学習支援の機会を拡充するとともに、幅広い世代の生涯学習を支援します。
- ③名古屋大都市圏が抱える地域課題の解決に寄与する調査・分析・提案を進めるとともに、名古屋市をはじめとした地方自治体等を支えるシンクタンク機能を強化します。

社会貢献未来プラン2021 概要一覧

領域	プラン	対応する名市大未来プラン2021番号
社会貢献	(1)SDGs17の目標達成に向けた取り組みの推進 SDGs未来都市に選定された名古屋市と協調し、総合大学としての本学の力を発揮してSDGs推進拠点を構築します。行政や企業等と連携しつつ、教職員、学生が参画する本学の特長を活かした取り組みを推進し、社会課題の解決に貢献します。	3-(1)
	(2)市民・団体との協働・協創による地域活動の促進 医療、福祉、防災、環境などの生活課題に関して、教育・研究成果をもとにした地域貢献の活動概要を大学側のシーズと、課題を抱えた団体からのニーズのマッチングを行い、地域貢献に資する市民活動を実施します。	3-(2)
	(3)公開講座・イベントによる子育て・学習支援の促進 将来の地域貢献を行う人材育成を促進するため、家庭環境に困難がある家庭の子育て支援や子どもたちへの学習支援の機会を拡充します。	3-(2)
	(4)地域の子どもの学習意欲を育むアウトリーチ活動の活性化 地域の子どもへの学習支援となる学内外でのアウトリーチ活動の活性化を推進します。	3-(2)

領域	プラン	対応する名市大 未来プラン 2021番号
社会貢献	(5) 幅広い世代の生涯学習の機会の拡充	3-(3)
	若年者から高齢者まで幅広い層を対象に、ライフプランの実現やQOL等の向上を目的とした継続的な学習の場とできる市民向け講座を実施します。また、キャリアが分断したり、中断した人の学びの土台となるような時代にあったリカレント講座や先進教育講座を企画します。	
	(6) 市民生活に関わる重要テーマでの生涯学習本の出版	3-(3)
	複数分野における生涯学習本の出版の検討を進め、市民の生涯学習を支援します。	
	(7) 地域連携・学外連携のための施設の検討・整備	3-(3)
	学びを通じて、市民が交流し、地域連携を推進することができ、また学外連携・共創拠点とすることができる施設の整備を検討します。	
(8) 地域住民への大学施設の開放利用の促進	3-(3)	
オープンキャンパスや市民公開講座等で来校した高校生や地域の方へ、図書館等の大学施設の利用を積極的に案内・PRします。		
(9) まちづくり、地域経済の活性化、子育て支援、医療、福祉など 名古屋市をはじめとした地方自治体等が抱える課題解決への貢献	3-(4)	
全学的な共同研究体制のもと、名古屋大都市圏が抱える地域課題に対して、解決に寄与する調査・分析・提案を進めます。		
(10) データサイエンスを活用した学際的・横断的な取り組みの開始・推進	3-(4)	
データサイエンス学部(仮称)と他学部との連携による名古屋市をはじめとした地方自治体の政策形成や実現を学術的な見地から支えるシンクタンク機能を強化します。		

国際化未来プラン2021

～地域に根ざしたグローバルな活動の展開～



■ 国際化未来プラン2021で目指すこと

本学の特長とこれまでの実績を活かしつつ、2018年度に策定した「国際化基本方針」を基に、研究と教育のさらなる国際化を推進します。国際社会および地域社会と協働し、誰もが平和と豊かさを享受できる世界をつくるための知を生み出し、人を育てます。

■ 国際化未来プラン2021 概要一覧

領域	プラン	対応する名市大 未来プラン 2021番号
国際化	(1) 教育・研究の国際化のための仕組みづくり 学生がグローバルに活躍できる未来を切り拓くための学習環境と、国際化のニーズに対応できる教育・研究力向上のための制度・環境を整備します。	4-(1)
	(2) 国際交流センターの機能・体制強化 教職員が連携して大学の国際化を推進する国際交流センターの機能・体制を強化します。	4-(2)
	(3) 海外拠点校を中心とした交流および協働の推進 教職員と学生による国際交流・協働への主体的な参加を促進し、交流先を多様化するとともに、海外拠点校を中心とした国際交流協定校との関係を強化します。	4-(3)
	(4) 名古屋市圏の多文化共生を支える学際的な研究と実践の促進 海外にルーツを持つ人たちが地域で生活していくにあたっての言葉の壁、心の壁、制度の壁をなくしていく方策について、総合大学ならではの学際的なアプローチで研究し、実践を促進します。	4-(4)



桜山(川澄)キャンパス

医学研究科・医学部
看護学研究科・看護学部



滝子(山の畑)キャンパス

経済学研究科・経済学部
人間文化研究科・人文社会学部
理学研究科・総合生命理学部



田辺通キャンパス

薬学研究科・薬学部



北千種キャンパス

芸術工学研究科・芸術工学部



名古屋市立大学病院



医学部附属東部医療センター



医学部附属西部医療センター



研究科等未来プラン2021の
詳細はこちら

発行日：2022年1月